

『上げられなければ』 ヨハネの福音書 3章7～17節 2017.5.28(聖日礼拝説教より)

『モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。』 ヨハネの福音書 3章14節
天の父なる神の悲願は、御心が地(個人・家庭・教会・世)で実現すること！今日は、『だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です』に注目したい！

❶天から下ったお方(13節)…神様は天から見おろすだけでなく、御子を世に遣わされた。汚れなき聖なる方が降り立った地上は、怒りや憎しみ、偽りや欲望が渦巻き、どんなにお嫌だったことか。しかし神の御心は、御子を信じる者がみな永遠の命を持つことである(15節)！それは愛する者たちを滅びから救い、神との交わりを回復するため！★あなたは、その天の神の深い御愛を知り、遣わされた御子を信じ、その御声を聴いて、日々正されて歩む人生とされたらどうか？

❷あげられた人の子イエス(14～15節)…『人の子』の意味は2つ！①「神だけど人の姿をした方」(ダニエル 7:13～14)、②「完全に人である方」(ヨハネ 1:14)。完全に神であり、完全に人であるイエス様が、『あげられなければ、私たちが救われない！』とは？民数記 21 章で、不信仰の民を裁く『燃える蛇』に苦しむ民が救いを求めた時、神は「青銅の蛇を竿につけて高く掲げ、それを仰ぎ見た者は生きる！」と告げた。この神の救いの方法をそのまま信じ、「仰ぎ見た」者は死を免れた！同様にイエス様の十字架を仰ぐ者は、罪赦され、神の怒りから救われて、新しく生まれると告げた(Ⅰペテロ 2:24)！新しく生まれた人には特徴がある。例えば、①「ごめんなさい」が言える人になれる！(詩篇 51:17)！人はなかなか自分の非を認めない。しかし神の前に「ごめんなさい。私が悪かった…！赦してください」と心砕かれた人は、人の前にも素直にされ、心も身体も元気にされる！②罪を犯し続けることができなくなる！罪赦される前は、罪を犯して平気だった。しかし新しく生まれた時、罪を悲しみ、楽しめなくなる(Ⅰヨハネ 3:9～10)！「(罪を)犯しません」とは『犯し続けることができない』の意！クリスチャンも失敗し、誘惑に負けることも…。しかし立ち返る場所を知り、十字架を仰ぎ、罪を告白し、赦しを確信し、神を喜び感謝して、笑顔が回復される！③自分を押し通すより、神と神の愛する人のために生きたいと願うようになる(Ⅱコリント 5:15)！今イエス様は、天に上げられて、御国を目指して地上を旅する私たちのために執り成しておられる(ローマ 8:34)。

★あなたは、日々罪と訣別し、「ごめんなさい」が素直に言えて、誰かを慰め、笑顔にしたいだろうか？十字架の上に、そして天に上げられ、あなた(私)を祈り導かれるイエス様を仰ぎ見つつ、感謝と笑顔の一週間となりますように！